



川づくりワークショップ

大正

昭和

川づくりワークショップの経緯

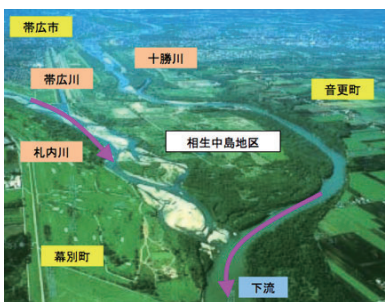
平成9年の河川法改正により、河川管理の目的として、「治水」、「利水」に加え、「河川環境」（水質、景観、生態系等）の整備と保全が位置づけられ、河川整備に関する計画は住民の意見を反映して定めていくこととなりました。

このような背景のもと、十勝川中流部においてよりよい川づくりに向けて、平成14年～平成16年に「十勝川相生中島地区WS」、平成22年～24年には「十勝川中流部WS」が開催されました。WSには、地域住民や河川管理者の他、有識者・学識経験者などが参加者し、今後の川づくりについて検討を行い、川づくり（案）をとりまとめました。

- 平成 9年 「河川法」改正
- 14年 「十勝川相生中島地区WS」 2回開催
- 15年 「十勝川相生中島地区WS」 6回開催
- 16年 「十勝川相生中島地区WS」 3回開催
川づくり（案）とりまとめ
- 22年 「十勝川水系河川整備計画」策定
「十勝川中流部WS」 4回開催
- 23年 「十勝川中流部WS」 5回開催
- 24年 「十勝川中流部WS」 1回開催
川づくり（案）とりまとめ

十勝川相生中島地区WS

相生中島地区は十勝川と札内川の合流点付近に位置し、河川が湾曲し、低水路が狭く、付近に樹木が繁茂していることから洪水時に安全に水を流すことができない状況となっていました。早急な治水対策が求められていたことから、より良い川づくりを検討する場として「十勝川相生中島地区WS」を開催しました。



十勝川相生中島地区



WSの様子
(平成14年～16年)

十勝川中流部WS

平成22年に策定された「十勝川水系河川整備計画」に基づき、十勝川中流部（すずらん大橋～千代田分流域）の治水安全度向上のため、河道の掘削を行ことになりました。そのため、より良い川づくりを検討する場として「十勝川中流部WS」を開催しました。

平成24年から川づくり（案）に沿って確実に実施していることを確認するため、地域住民を中心とする「十勝川中流部市民協働会議」が設立され、河川管理者が進める河川整備について引き続き確認・改善を図っています。



WSの様子
(平成22年～24年)

川づくり（案）を「計画」→河川管理者が工事を「実施」→十勝川中流部市民協働会議が主体的に「確認」→必要に応じて十勝川中流部市民協働会議と河川管理者が「改善」方針を検討し、「計画修正」へ繋げるPDCA型河川管理として地域と連携した河川整備・管理を進めることが可能となりました。



地域と連携したPDCA型河川管理のイメージ

地域と連携した活動

平成24年～25年に流下断面確保のため造成した相生中島上流湿地は、地元高校生との活動を行っている貴重な場所です。しかし、平成28年8月の大規模出水により、湿地が冠水し、大量の土砂が堆積しました。出水前と比べると水域面積が半減していました。

今後も活動できるよう、十勝川中流部市民協働会議やNPO法人十勝多自然ネットが協力して湿地回復のための堆積土砂の掘削を行いました。



堆積土砂の掘削
(平成31年)

平成

令和

